

令和5年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	17
学校名	富山いずみ高等学校

学校の現状と課題	多様な進路志望及び学力の生徒が在籍しており、学習意欲や学習到達目標に大きな開きが見られ、それぞれの生徒に応じた学習指導や進路指導が必要である。そのため、全体指導に加えて、個別指導を丁寧に行う必要がある。 「自己の進路への自覚」を深めさせるためには、主体的・対話的で深い学びの実現の視点に立ち、生徒一人ひとりのキャリア発達を促し、勤労観・職業観を育てる取り組みや支援の在り方の工夫、教師の授業改善などが求められる。
テーマ(特色)	進路実現！わたしのいずみストーリー(社会の中における自己の在り方・生き方の探究)
設定した「テーマ」の達成状況	・総合学科1学年では、「自分を知る」「社会を知る」「地域を知る」の3つの学習内容から、社会の中における自己の在り方・生き方を考えさせた。自己実現に必要な科目選択や社会の現状を知ることを通して、自己理解力・キャリア形成力の向上を図ることができた。 ・総合学科2学年では、探究活動を通して社会の課題に関心を持ち考察を深めるとともに、進路学習から自己の将来について具体的な目標を立てその実現のための方法について考えることができた。 ・総合学科3学年では、自分の進路に関わる課題研究を行うことにより今後の目標がより明確になり、進路実現に向けて意欲的に取り組もうとする意識が高まった。 ・看護科・専攻科看護科では、看護臨地実習や事後の発表会、看護研究を通して課題解決能力や探究力、コミュニケーション能力、臨床判断・実践力を伸ばすよう計画し、予定通り実施できた。専攻科特別講演会でがん体験のピアサポーターから、生の声や思いを聴くことができ、看護へのモチベーションの向上と看護観形成に繋がった。
実施内容(具体的に記入する)	○総合学科1学年の取組 ①全体説明会では「産業社会と人間」を学ぶ意味について説明を聞き、これからの1年間の学習の意義を学んだ。「自己を語る」では自分自身を理解し、将来の目標について発表を行った。 ②職業研究では「働くこと」の意義について考えた。身近な人に具体的な働き方を聞き、興味のある職業を調べて級友との情報交換を行った。多様な職業を知ることによって職業に対する視野を広げることができた。 ③学問研究：学問と職業のつながりについて調べた。学ぶことの意義や進路について考えを深めることができた。 ④科目選択ガイダンス 自分の将来を考え進路選択に必要な科目を決めた。 ⑤先輩と語るでは、卒業生から大学の様子や学問研究、高校時代の取り組みなどを聴き、現在の自分のあり方を考え直すための良い機会となった。 ⑥国際理解講座では8か国の講師を招き、興味のある国について調べたり、講演を聴いたりして理解を深めた。講師を招いての交流会の企画運営など主体的な活動を行った。 ⑦地域を知る・富山の地域課題研究では、富山の産業や観光について調べたり身近な地域の課題について考えたりした。「locusプログラム」を活用し、企業のサプライチェーンやイノベーションの事例を参考に地域の課題の見つけ方や考え方を学んだ。 ⑧～⑩地域・企業探究、企業訪問、地域社会探究では、訪問する企業の取り組みや地域・社会とのつながりについて事前に調べ、見学時に調べたことの内容について質問を行った。企業が社会どのように貢献しているかを学んだ。事後学習では、企業訪問で学んだことをまとめ、課題解決にどのように取り組んでいたのかを考え、まとめたことを発表した。 ⑪産業社会と人間発表会：企業訪問についてはパネルディスカッションを行い、意見交換を行った。①～⑩の学びをグループごとに発表した後、代表生徒による1年間の成長についての3分間スピーチを行った。1年間の活動を振り返りながら自分の成長を見つけ、学んだことを今後どう生かすかについて考える機会となった。 ⑫「産業社会と人間」報告集：1年間の学習を振り返り、「産業社会と人間」の授業で学んだことや今後の進路に生かしていきたいことなど、学習の成果をまとめた。 ○総合学科2学年の取組 A探究活動講演会：「南富山を考える会」から講師を招き、富山いずみ高校周辺の地域課題について学ぶと共に、探究学習の意義について考えることができた。 B研修旅行：関東方面の大学や施設を訪問し、進路に関する見識を深めた。事後学習では研修内容を振り返り、学びや気づきをポスターや報告書にまとめた。 C科目選択ガイダンス：3年次の科目選択について考えると共に、自己の進路目標を確認する機会となった。 D上級学校見学会：富山大学を訪問し、大学説明や模擬授業を受けた。県内の上級学校の見聞を広げることができた。 E進路講演会：外部講師を招聘し、入試の現状や学習方法について講義を受けた。学習意欲と進路意識を高める機会となった。 F探究活動中間発表：大学教員や外部の専門家の方々から研究内容についてアドバイスをいただき、課題解決に向けた探究活動を再考することができた。 G志望理由書に関する講演会：外部講師を招聘し、志望理由書の書き方を学んだ。将来の進路志向に向けた具体的な志望理由を探る契機となった。 H出前講座：大学、短大などから14名の講師を招き、模擬授業を体験した。専門的な学びや研究の一端に触れ、上級学校での学びについて関心を深めた。 I探究活動講演会：外部講師を招聘し、効果的なスライドの作り方についての講習を受けた。スライド作りの技術が高まった。 J主権者教育「選挙に関する出前授業」：富山県選挙管理委員会から講師を招き、選挙制度や投票することの意義について学び理解を深めた。 K探究活動発表会：1年間の探究活動の成果をスライド投影やポスターセッションの形で発表した。探究活動を通して、これからの社会を生きていくために必要な考え方を身に付けることができた。 ○総合学科3学年の取組 α卒業課題研究・発表会：進路において積み重ねた学びを将来につなげ、社会で生かすために、進路に関わる調査・考察・発展的学習を行った。 β主権者教育(行政相談講座)：富山市の行政相談員を講師に迎え、行政と生活との関わりや行政相談制度について理解を深めた。(安全教育講座)：薬剤師による講演を聴き、薬物の心身への影響と危険性、社会への影響について理解を深めた。 (年金セミナー)：年金事務所より講師を迎え、公的年金制度の役割や必要性について学んだ。 γ卒業課題研究報告集：卒業課題研究を通して学んだことや今後の進路に生かしていきたいことなど、研究の成果をまとめた。 ○高校看護科(専門知識や技術を身につける)・専攻科看護科(病院実習を通して、課題探究力・課題解決力を身につける)の取組 a看護研究(専攻科2年)：グループ毎にテーマを決め、科学的根拠に基づいた研究に取り組み発表を行った。 b卒業生の進路懇談会(専攻科2年)：卒業生を招き懇談会を実施し、進路実現への取り組みについて助言をもらった。 c専攻科特別講演会(専攻科1・2年)：富山県がんピアサポーターの講演会を実施し、がん体験の患者の生の声や思いを聴くことができた。 d看護臨地実習グループ発表会(看護科3年)：実習グループで事例を通して振り返り、学んだことをまとめグループ発表を行った。 f病院事例報告会(専攻科1年)：病院実習で行った看護実践について考察し発表を行った。 ○教員への取組 ア新学習指導要領の学習評価について講師を招いて研修を行った。
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	1学年：「イナビ」探究活動の進め方を用いて、ワーキングショップやグループ学習、発表活動を行い、他者と協働する力、コミュニケーション力、情報収集力を培った。各ステージごとにクラス規模で発表を行う機会を設けて経験を積ませたことで、情報をまとめたりわかりやすく伝える力が向上した。学びについてステージごとに振り返りを行い、次の活動につながるような工夫を行った。外部講師による講演会、国際理解講座は、社会や世界を知り視野を広げる良い機会となった。地元企業訪問は地域と企業のつながりを知るだけでなく、地域の方から学びの機会を得る貴重な体験となった。 2学年：進路学習や探究活動を通して、自分の興味関心と社会の問題を関連付け、将来の進路についてより具体的に考えることができた。研修旅行での大学見学や施設訪問で本物に触れた経験は、自分自身の将来について深く考える契機となった。特に1年間を通して取り組んだ探究活動においてはテーマを見つけ、情報を集め整理し、発表するというプロセスを体験した。これらの活動は思考・判断・表現の力を高め、これからの社会に必要な力を身につけることができる活動となった。進路講演会や出前講座では、実際の大学の先生の話から、進路目標の実現に向けて具体的な行動を促す機会となった。 3学年：卒業課題研究においては、進路に関わる調査・研究を行うことにより、自分の将来をより具体的に考え、目標をもって学習に取り組むことができるようになった。行政相談講座や年金セミナーでは、日常生活と行政の関わりについて理解を深め、安心・安全な社会で暮らせるように困ったことがあれば相談する術も学んだ。また安全教育講話では、心身の健康や適切な行動選択・意思決定の重要性を学んだ。いずれも、今後の進路となる学びになった。 高校看護科：各グループ事例を通して行った看護を振り返ることで実習体験の共有を回り、深い学びにつながった。またグループ発表によってプレゼンテーション能力や看護師に必要なコミュニケーション能力を高める一助となった。 専攻科看護科：卒業生との進路懇談会(専2年)では卒業生を招いて、進路や学習方法についての情報やアドバイスを獲得し進路実現への意欲向上の機会となった。 看護研究(専2年)では、臨地実習での看護実践の中から感じた疑問点からグループ毎にテーマを決め、科学的根拠に基づいた研究に取り組み探究力の向上を図ることができた。病院実習事例報告会(専1年)では、生徒一人ひとりが臨地実習での看護実践について看護理論を用いて考察し、自己の看護観の育成に繋がった。専攻科特別講演会では、がん体験のピアサポーターから、生の声や思いを聴くことで、看護へのモチベーションの向上と看護観形成に繋がった。 教職員：新学習指導要領の学習評価において、観点別評価等について学ぶ、貴重な研修の機会となった。
対象者(学年・人数など)	1年189名(総150名・看39名)、2年180名(総140名・看40名)、3年182名(総145名・看37名)、専攻科看護科69名(1年32名・2年37名)
実施実績	4月 ①全体説明会・自己を語る 5月 ②職業研究 A探究活動講演会(2年) a看護研究(専2年) 6月 ③学問研究 b卒業生との進路懇談会(専2年) ア教員研修会 7月 ④科目選択ガイダンス B研修旅行(2年) C科目選択ガイダンス(2年) ア教員研修会(教員) 8月 ⑤先輩と語る D上級学校見学会(2年) 9月 ⑥国際理解講座 10月 ⑦地域を知る・富山の地域課題研究 E進路講演会(2年) 11月 ⑧地域・企業探究 F探究活動中間発表(2年) G志望理由書に関する講演会(2年) 12月 ⑨企業訪問 H出前講座(2年) c看護研究発表会・まとめ集(専2年) d専攻科特別講演会(専1・2年) 1月 ⑩地域社会探究 I探究活動講演会(2年) e看護臨地実習グループ発表会・まとめ集(看護科3年) 2月 ⑪産業社会と人間発表会 α卒業課題研究・発表会 β主権者教育(行政相談講座・生活安全講座・年金セミナー) 3月 ⑫産業社会と人間報告集 J主権者教育「選挙に関する出前授業」(2年) K探究活動発表会(2年) γ卒業課題研究報告集 病院実習事例報告会・まとめ集(専1年)